

TOP INTERVIEW

時代軸思考で展望を

SCOPE理事長 広瀬宗一氏



広瀬SCOPE理事長

（前）港湾建設技術サ... (SCOPE)の広瀬理事長は、環境変化や社会の変革の時代を乗り越えていくにあたっての考え方を聞いた。

への取組や自然災害を始めとするリスク管理が浮上している。これらの課題解決、処方箋として広瀬は、①時間軸思考、②「人」、「技術」、「仕組み」のバランスのとれたシステム構築、③国土価値の創造、そして④リスクマネジメントの時代を挙げる。

平成17年に『品確法(公共工事の品質確保の促進に関する法律)』が施行になったが、これ(仕組み)の趣旨を活かして

リスクマネジメントの時代

③ 国土価値の創造
我が国の国土の価値をいかに評価し、活かしていくかが今後大事になる。この「国土の価値」というテーマについては、慶応大学の和氣教授(和氣洋子・慶応大学商学部教授)が国土交通政策審議会の場で提案されておられるが、これまでの国土の価値判断では、例えば観光地や農勝地など単一、あるいは点として

等危険地域で、これを防衛しても投資効果や技術面で無理と判断すれば、住民の居住を規制して安全な場所に誘導するなど取組が必要になる。古い町並みや歴史的価値が判断されれば、観光地としての新たな賑わいも期待できる。価値には多様性があり、価値の見方も人や組織により異なるので一筋縄ではいかないかもしれないが、こうした国土価値を評価する仕組みの導入により、国土の在り方としての新しい方向性が見えてくるのではないかと。

④ リスクマネジメントの時代
急速なグローバル化の進展につれ、近岸様々なリスクが拡大し、リスク自体も多様化しつつある。テロや感染症、あるいは重大な自然災害被害の発生などが挙げられる。水や食糧、エネルギー、金融商品などのリスクもある。我々はこれらのリスクを適切に把握

については国の行政機関や企業が業務の一環として人材育成にも貢献してきたが、今は行政も職員が減少し、様々な規制も加わって日々の遂行で手一杯なのが実情だ。また企業も価格競争に翻弄され、人を育てる余裕や環境が益々少なくなりつつある。ただ我々のような組織は、発想の自由度について言えば柔軟性に富んでいる部分がある。各研究機関それぞれ情報発信することにより、人材育成に貢献できると考えている。2月に我々がまとめたリスクマネジメント用語集を発行するほか、3月には米国での公共調達に関する議論を踏まえ、公共調達・発注者のための「ベストプラクティス(仮題)」などの発刊を準備している。こうした研究成果を広く世に提供することも人材育成につながるものと考えている。(広瀬理事長の談話を本紙がまとめました)